

ネットひろば「平和」分野第1回ミーティングの標語について

今回の「ネットひろば『平和』分野第1回ミーティング」を開催する標語「わたしたちの心は燃えていたではないか」を選んだ理由について、下記のとおり説明します。

過去の出来事（教区100周年までの歩み）

標語として取り上げた「わたしたちの心は燃えていたではないか」（ルカ 24・32）は、主の十字架の死と復活後、二人の弟子がエルサレムからエマオの村へ向かっている場面の一節です。

仮に教区100周年までの歩みを「過去の出来事」と捉えたとすると、この場面は聖書において、イエスの誕生から（エルサレムで）の死の出来事に対応しているともいえます。

例えばルカ 24・18-24 では

その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在していながら、この数日そこで起こったことを、あなただけにご存じなかったのですか。」イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力ある預言者でした。それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。わたしたちはあの方こそイスラエルを解放してくださいと望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、遺体を見つけずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。

と説明しています。わたしたちは復活したイエス・キリストを信じています。それにも関わらず、教区創立から今までの教区の歴史の中でのさまざまな神の働き、聖霊の息吹を見失うこともあったかもしれません。

神の働き、聖霊の息吹を振り返る（教区代表者会議の準備期間）

広島教区において神の働きを振り返るきっかけとして、教皇フランシスコの呼びかけがありました。教皇は2019年10月を「諸国民への宣教」を促すための特別月間に制定され、これに応じて日本の司教団は「ともに喜びをもって福音を伝える教会へ」向かって内的刷新を日本の教会へ求めました。それらに応じて白浜司教は広島教区内において10月20日（「世界宣教の日」）に、各小教区で一斉に「福音宣教のための特別月間ミサ」をささげ、教会が喜びをもって「諸国民への宣教」の使命に生きることができるよう祈ることを呼びかけました。」また同時に、この「福音宣教のための特別月間ミサ」の中で、2020年11月23日に

「教区代表者会議」を開催することを宣言し、一年間の準備に入りました。

新型コロナウイルス感染症の流行で教区代表者会議の開催は1年延期になりましたが、この教区代表者会議までの準備期間が、エマオまでの道すがらイエスが二人の弟子たちにご自分について説明した場面と対応しているかもしれません。

そこで、イエスは言われた。「ああ、物わかりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことをすべて信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのでないか。」そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、ご自分について書かれたことを説明された。(ルカ 24・25-27)

広島教区の今までの歩みは、神の働き、聖霊の息吹による歩みによって支えられていました。これらのことを準備期間で振り返ることができたのは、大きな恵みの時でした。

神の働きと聖霊の息吹を確認する（教区代表者会議当日）

私たちは教区代表者会議の第一会期（2021年11月23日）と第二会期（2022年2月23日）を開催しました。代議員たちが分科会での分かち合いを通して、広島教区への神の働きと聖霊の息吹を確認することができ、特に第二会期では白浜司教へ教区100周年後の宣教司牧に関する答申を提出しました。まさに教区代表者会議参加者は「わたしたちの心は燃えていたではないか」と自答できる状況ではなかったでしょうか。これはエマオの村の宿泊地での食事の場面と対応しているように思います。

一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日が傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。

(ルカ 24・28-35)

神の働きを伝える（今後の具体的な福音宣教活動を考える）

代議員たちと過去を振り返る準備期間を過ごしながら、「みことばの食事」をとおして目が開かれ、わたしたち広島教区民の宣教司牧の心が燃えてきた体験をすごすことができました。

この福音宣教に燃える心を消さないためにも、今回の「ネットひろば「平和」分野第1回ミーティング」を開催する標語として選んだ理由です。

(担当：竹内)